

## こどもの居場所・子育て支援機能に関するご意見一覧（1月21日期限）

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					※備考		
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯				②-3 形態(どのように使うか)	③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)
					午前	午後	夜間			
1	子どもとその家族	20~50人	・1Fにあそび場(屋内と屋外) ・子どもの里の1Fホールを移動する「こどもの居場所」	ほぼ毎日		●	●	・夜はあそびのプログラムを週1回くらいする ・夜に中高生の居場所の運動を週1回くらいする ・週5~6回、あそびの場(放課後)としてつかう ・舞台や歌などの発表の場としてもつかう →支援が必要な子ども家族は相談につなげる	地域にこどもの居場所が必要だから(中心地につくことに意味がある)	
2	子ども・その家族	10人が入る部屋	ワンストップ相談室	ほぼ毎日	●	●	●	・行政横軸 現状の縦割り部署より、そのケースに関わるであろう担当者が集合 子どもに一番よい最善の利益を考え策を練る	子ども家庭省の出先機関、出張所 なにより西成区の目標の「子どもの声がかこえる町づくり」 日本一やさしい区役所だからできること！！	
3	子ども、子育て世帯、若者	—	子育て～就労、住まい等、総合的な相談ができる、ワンストップ窓口	ほぼ毎日	●	●		子育てや、子育て世帯の就労相談について(住まい等も含めて) 1つの窓口で相談を受けてくれる場	現状のたてわりの行政システムでは、せっかく勇気を出して相談に来てても「○○に関しては、この課ではない」と言われてしまう。ただでさえ複合的な課題を抱えている家庭・若者にとってはその過程でつまづいてしまうので、1つの窓口ですべて解決するシステムが必要。	
4	シングルの親子、生きにくさを抱えている人、障害のある人	—	ワンストップ窓口	ほぼ毎日	●	●	●	駅近なので、相談にくるにもアクセスよし。 路面に面して、広く明るい雰囲気に入りやすいように。 ケースワーカー的な職員がおり、地域と家に連絡をとりながら。	シングルの親子、生きにくさを抱えてたり、障がいがあったりする人はたくさんいる 親子や若者たち この街にはいろんな支援団体がある 労働センターも新しくなる 仕事も探せる、支援先もある、保育所もある、宿もたくさんある。 ひとつの窓口でうけとめ、スピーディーに次につなげられる。	
5	就学前の幼児児童	100人	・保育園 ・あお空保育(保育室兼) 釜ヶ崎の特徴を生かすべき ・緊急一時保護(あおぞら保育兼)	ほぼ毎日	●	●	●	釜ヶ崎の制度(あお空保育)を生かし、まず子どものいのちをど真ん中に子どもの最善の利益を考える場 ワンストップ相談と手を組む	子ども家庭省の 子どもの権利基本法 子どもの最善の利益を考えなければならない 西成区が日本一子どもにやさしい町となるため！！ 子どもにやさしい町は大人にもやさしい町です	
6	子ども 青年	30~50人	・音楽関係 ・ダンス関係 ・演劇関係 ・美術関係 ・工芸 ・園芸→屋上に庭園を造る 萩小の森が不可能ならば	週数回程度	●	●	●	“この指とまれ”形式で(各種講座をひらくような形) 部員を募集 (青年中心に企画、運営してゆく)	自分の力を発揮でき、または自分を認めることのできる場を準備できる、計画・企画できる、その場を提供することを子どもの権利を守るための大人がすべきこと(責務)	
7	子ども 青年	30人 相談・意見室(4~5人)	子ども会議の場(大室) 意見をもらう場 聴いてもらえる場(小室)					意見傾聴室は毎日 子ども会議室は他室とも兼ね、1か月に5~6回開催	子どもの意見を聴くこと。その場を整えることは。子ども家庭省がこれから全国に備えていく場で 全国先駆けてこの場にワンストップ機能と意見表明の機能を準備することは西成が出来ること	
8	子ども・青年・家族	50~100人	ワンフロアを子ども関係に(1Fでも2Fでも3Fでもよい。但し、萩小の森との連携) ・あそび場 ・ただ居られる場 ・自分を育てる場	ほぼ毎日	●	●	●	午前は主に就学前児童、未就園児とその親 午後は小学生・中学生 夜間は中学生・高校生・青年	子ども家庭省が創設されるように、子どもの居場所を用意することは子どもの権利を守る、大人の国の責務であるから 天災の中でもそうでなくても出生の場に関わらず、どの子も自分の居場所があることは権利である	

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
9	12歳～20歳頃までの子ども・若者	学校の音楽室くらいの広さ	音楽スタジオスペース(ギター、ピアノ、ドラムなどが無料で使える)	週数回程度		●	●	・利用人数・利用時間の枠を設定し、スタジオを利用することができる。(無料) ・楽器(ギター・ピアノ・ドラム等)の練習ができる。 ・ボランティアで、楽器が弾ける地元のミュージシャン等に来てもらい教えてもらえる企画を行う。	・子ども達から、思いきり楽器を弾ける場所がほしいとリクエストがあった。 ・音楽を通して気持ちを発散する場、仲間とつながる場(居場所機能の1つとして)が必要。有料スタジオは他の場所にもあるが無料で使える場所はなかなかないと思うので必要。	参考①b-lab(ビーラボ)(東京都文京区NPOカタリバ) ②フリースペースたまりば(川崎市夢パーク)
10	必要な親子	人数は流動的、700㎡くらい	相談及び居場所、保育所などの複合的な機能を併せ持つ場	ほぼ毎日	●	●	●	内容がどんな内容でも、何か相談したいことがあれば保護者がいつでも相談できて、そのまま相談内容に対して対応できるようなワンストップ窓口および居場所として使用(例:待機児童の保育や保護者の仕事あっせんなども含む)	既存の役場にある相談窓口はすべて縦わりになっており、相談したい内容それぞれの相談機関や窓口に出向く必要があり、本当に必要な親子に必要なサービスが供給されるのに、大変時間がかかり相談にいづらいシステムになっていると感じるから。	
11	子ども	30	遊び場(体育館)	ほぼ毎日		●		広い場所でしかできない遊び バスケット、ドッチボール、鬼ごっこ、バレーボールなど	閉校した学校の体育館は常に予約でいっぱい日常のあそび場として使うことができない。いつでも使える広い空間が子どもには必要。	
12	子ども、親子	30人ほど、600㎡	パルクールができるような遊具、障害物を置く、または、ボルダリングが少しでもできるように設置するなどアスレチック機能を持っている広場	ほぼ毎日		●		子ども達がアスレチック機能のある遊具・障害物などで体を思いきり動かす	アスレチック機能のある場所(公園)がほしいというのはこどもの里でも子ども達がよく言っているのでこども達の声を実現させてほしいから。	
13	子ども、子育て世帯、若者	30～50人	体育館的な場所	ほぼ毎日		●		行けば遊べる(子どもたちだけでも)もしくは予約システムが簡単に来て誰でも(こどもいれば)利用できる	子どもたちの体を動かして遊べる場所が少ないため。 ボールやバドミントンなどができるように。 雨天時でも遊べる場所	
14	子ども(親子)	30人ほど、600㎡	子ども達が思いきり遊べるプレイルーム 体育館の床が希望	ほぼ毎日	●	●		放課後や休日の子ども達がボール遊び(ドッチボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーなど)や鬼ごっこ、大縄など思いきり遊べるように使用する	西成区内に上記の遊びを天候や道路に面している危険などに左右されず遊べる場所が少ないから	
15	子ども、保護者、子育て家庭	20～30人	ボールなども使える屋内の広い遊び場(ミニ体育館)	週数回程度	●	●	●	ボールあそびやスポーツなど雨の日でもおもいきり体を動かして遊べる場所 バスケットゴールやパレー、バドミントンなどできるスペース	地域内のこどもの居場所は複数あるが、どれも小規模でおもいきり体を動かせるスペースは少ない。 中高生&ティーンも放課後や土日にスポーツしたい子で集まって室内で運動できる施設があると健全な交流の場になる。	夜間は、21時頃まで利用
16	子ども・親・親子につながる地域の人、トラウマ・障がいなど生き辛さを感じる人		緊急避難、一時宿泊、相談窓口(ワンストップ)、居場所	ほぼ毎日	●	●	●	【相談窓口】 幼～高校生(保護者・地域の人)が居場所・生活・将来(職)のことなどを相談し、対応場所へ繋ぐ。 【一時宿泊】 地域の事業所・家庭あるいは児相他対応先に動くまで寝食と安全を補償できる機能 【居場所】 相談ができる場所になる為に普段から見える・行ける場所として	・地域・行政資源に詳しく関係が取れるケースワーカーがいることにより、取り残されることなく繋がる手助けが必要 ・どこに相談したら良いか分からない人が本来受けられるサポートを受ける為	

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
17	小～高校生	10～30人	運動場所(屋内・屋外)	週数回程度	●	●		ボール遊びや集団あそび スケートボード、Jボードに使えるコンクリート?スペース	広さがあって周囲を気にせずボール遊びができる場所が近くにないため 同じくスケボーなどができる安全な場所がないため	
18	地域の子育て中の親子すべて	200人程度、700㎡くらい	親子での居場所、交流の場	月数回程度	●	●		定期的な親子でのワークショップやフリーマーケットなどの各種イベントを開催するために使う	今は地域の中で親子で気軽に集まったり交流できる場がどんどん減っているため。 また実際に多くの子育て中のママからそのようなイベントができる機会を作ってほしいという要望を何度も聞いているため。	
19	地域の小中高生および幼児など子どもすべて	大人数でも入れるように700㎡くらい	体育館・スポーツ広場としての機能	ほぼ毎日	●	●	●	バスケット、ドッチボール、バドミントンなど各種スポーツやその大会を思いっきりできる場所として使う。 また、地域の子ども・親子での運動会ができる場所	地域の中で子どもたちが気軽に利用できる体育館やホールが地域にないから。また、いくつかの既存の体育館やホールは、利用の予約や手続きに時間がかかったり、すでに他の団体利用ですべての曜日が埋まっていたりするからです。	
20	地域の中高生および若者	200～300人程度、700㎡くらい	居場所および自己実現の場	週数回程度		●	●	定期的に音楽クラブやダンスサークルやヨガ教室などが開催できるような場所として使用。また、それらの発表の場として、ライブやイベントなどを定期的に行う。	夕方や夜間に中高生および若者が健康的に集えて、自身の特技や夢を活かし叶える居場所がなかなかないため。 また中高生と元中高生が交流し、良い刺激を与えあえる場があることはすごく良いことだと考えるため。	
21	乳幼児、小学生、中学生、高校生、若者、親子		子どもの居場所。 ・体育館的な体を動かせる広場、防音設備ありの部屋 ・卓球やフットサル、バスケ、バドミントンなど、ダンスや音楽の練習ができる ・授乳できる部屋 ・絵本スペース ・飲食できる部屋 ・バリアフリーのトイレ	ほぼ毎日	●	●	●	登録制。無料もしくは低料金	家と学校以外の居場所が必要と言われているのに、児童館や青少年館がなくなっている。 いきいきは学校の空教室での実施でそれでは意味がない。 同世代だけでなく幅広い年代の子たちとすごせる場。 子育て世帯のよびこみにも、子どもがすごせる場所は必要。	
22	親子、子ども、若者、全世代		公園・プレーパーク・農園的な緑のあるスペース	ほぼ毎日	●	●			地域に緑のあるスペースを。 地産地消できるしくみ作り。 そこでの世代間の交流	
23	小・中・高・若者		居場所、自己実現	ほぼ毎日	●	●	●	スケボー、バスケットゴールなど好きな時に集い、活動できる場所	自分が好きなことを行うことを通し、時には力を充電したり、新たな自分を知る機会、新たな人とならざる場になれば	
24	子育てにかかわっている全ての人(乳幼児)		・相談 ・居場所 ・あそび場(乳幼児、動きの少ない遊び)	ほぼ毎日	●	●		子育て(生活)に関する相談ができる場所 乳幼児がゆっくとあそべる場所が隣接	・相談となるとハードルが上がるかと思うので、子どもたちがゆっくとあそぶ姿を見守りながら、安心して話ができるように。 →相談もここである程度解決に向かえるような体制がとれれば	
25	子ども		子どもが思いっきりあそべる場所					跡地だけでは難しいと思うので、地域内の他の公園や萩小の森など、対象年齢もしくは目的に特化した空間ができれば。		

こどもの居場所・子育て支援機能に関するご意見一覧（1月21日期限）

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何mくらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
26	市内の不登校等で 日中の居場所がない中高生	尼崎ユース交流センターと同規模	居場所 交流	ほぼ毎日	●	●		参考：尼崎ユース交流センター	おそらく大阪市内で公設（公営、民営問わず） でそんな場所はないと思う。 （大阪市中学不登校生徒3,306人）	
27			放課後の居場所	ほぼ毎日		●	●	・コミュニケーション機能 ・塾機能		
28	子ども	30～50人	保育所	ほぼ毎日	●	●	●	駅前という利便を生かして、子どもを預かってくれる （働く形態（時間）に柔軟に対応できる） 旅行者などの一時保育も引き受ける。	働く時間が多様化しているので、（いくら保育所 があっても周りに若い小さい子どものいる世帯が住 めるハウジングがないと定着できないので合わせて 検討）	
29	仕事を求めに来る 人の		託児	ほぼ毎日	●	●		子供の居場所・子育て支援機能に組み込んだ形 で利用できるもの		
30	不登校の子 誰でも 利用したい人誰で も		したいことができる場 何もなくてもいい場 したいことを見つけられる場 相談していける場			●	●	●	西成区に子どもを呼びよせる 子どもにとって魅力ある場であれば人は来る	
31	全世代		かわいいイメージを作る							
32	子供		子どもショップ						作った作品を売る エンパワーメント	
33	子供を預ける親		保育所として	ほぼ毎日	●	●		駅も近く仕事に行くのに送り迎えがしやすい。この 地域ならではの特長を生かした保育を考える。こ の地域のおっちゃん達を講師として一緒に物を組 み立てたり何かを作ったりするなど		
34	トランスジェンダーの 方 他人とお風呂に入る のが嫌な方	個室のシャワー室が 2ヶか3ヶ	コイン式の個室シャワー室	ほぼ毎日	●	●	●	シャワー室として	トランスジェンダーの方が利用できる個室シャワー 室が公的でない。最近の若い方は大浴場で他人 と一緒に風呂に入るのが嫌でシャワーのためにに ネットカフェを利用する人も多い。釜ヶ崎の中で使 えるものが欲しい。	
35			地域のこと（労働者や精神がい者 が多いこと）をよく知っている人が 管理・運営をしないと対立・困乱の もとになることを考えてほしい。						学校や保育所に行く前に朝食を提供する。 親が用意しなくて学校にいけない子がいる。	
36	子ども（小学生以 上になるかなあ）	大きくなくてもいい	相談	ほぼ毎日	●	●	●	子どもが安心して、自分の意見を言える場所 （人）	子どもが安心して意見できない子どもの存在があ る。 守秘されながら、新たな一歩をふみだしたり、相談 したりできる場があれば。	
37			屋上にスケートリンク場						庭園のまわりにコースをつくる	
38	技能講習を受けに 来る人の子ども		親が技能講習を受けているときに、 子どもも学ぶことができる。セットでス キルアップできる仕組み							
39			気軽に相談できる場、気軽に安心 して来られる場所							
40	しんどさや問題を抱 えている人		必要などころにつなぐ機能							